

北軽井沢に多いカラマツは漢字では「落葉松」と書きます。日本に自生する針葉樹では唯一、秋に落葉します。外来種では「メタセコイア（アケボノスギ）」も落葉します。一般に高原や北国など、冬に積雪のある地域に自生する常緑針葉樹は、枝が非常にしなやかです。葉の上に雪が積もっても、そう簡単に枝が折れることはないのです。

しかしカラマツは、雪の重さから枝を守ることをせず、秋に葉を落として雪の重さをやり過ごすという選択をしました。従って、カラマツの枝は非常に脆（もろ）く、本当に簡単に折れます。私の山荘の裏庭には、カラマツの樹が20本以上ありますが、ちょっと地掃除を怠ると、とたんにカラマツの枝だらけになります。カラマツは「落葉松」ではなく「落枝松」と書いたほうが良いように思えます。

風が強い日や、雹（ひょう）が降ったあとには、まだ葉や果実がついたままの枝が落ちていることもあります。先日も、葉と球果がたくさんついた大きな枝が落ちていました。カラマツがどうしてこんな進化の選択をしたのか、不思議です。

(2024年7月下旬／北軽井沢)

